

[成果情報名]切り餅加工適性に優れる中山間地向け水稲糯新品種候補「福島糯8号」の採用
[要約]水稲「福島糯8号」は、“中生の早”の糯品種で「ヒメノモチ」より多収であり、餅の硬化速度が速く、丸めやすいので、切り餅、丸め餅及びおこわへの用途に向いているため、福島県阿武隈山間地域対象の奨励品種（特定品種）に採用する。

[キーワード]イネ、新品種、福島糯8号、糯米、切り糯

[担当]福島県農総セ・作物園芸部

[代表連絡先]電話 024-958-1722

[区分]東北農業・作物

[分類]技術・普及

[背景・ねらい]

福島県の阿武隈山間地では、売れる米作りへの取り組みとして糯品種の栽培が行われているが、山間地の主力品種である「ヒメノモチ」は、耐冷性が弱く、穂発芽しやすいことから、収量や品質が不安定である。そこで収量、品質が安定し、餅加工適性の高い品種が求められている。

[成果の内容・特徴]

1. 「福島糯8号」は、出穂期、成熟期が「ヒメノモチ」より早い“中生の早”に属し、熟期の点で阿武隈山間地への適応性が高い。
2. 穂発芽性は“やや難”で、「ヒメノモチ」より穂発芽しにくい。
3. 障害型耐冷性は“極強”で、「ヒメノモチ」より収量の安定性が高く、多収である（表1）。
4. 「ヒメノモチ」より硬化速度が早いため、切り餅や丸め餅等の餅加工適性が優れている。（図1）。
5. おこわの食味は、「ヒメノモチ」より粘りがやや強く、外観及び味が優り、良食味であり、おこわ加工適性が高い（表2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 福島県の阿武隈山間地域（400～500m）で約100ha程度の作付けを見込む。
2. 加工適性が高いので、地域特産品開発等による地域の売れる米づくりを支援し、地域活性化に貢献できる。
3. ヒメノモチより短稈であるが、耐倒伏性がヒメノモチ並なので、肥培管理には注意する。
4. 籾数を確保しやすい反面、青未熟粒により品質が低下する場合があるので、多肥栽培は避け適期刈り取りに努める。

[具体的データ]

表 1 . 水稲奨励品種決定調査成績

試験場所	品 種 名	供試年次	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	倒伏 (0-5)	葉いもち (0-5)	穂いもち (0-5)	玄米重 (kg/a)	品質 (1-9)
猪	福島糯8号	2000年	8.05	9.16	74.2	16.6	435	0.5	0.0	0.0	55.3	4.0
		2001年	8.02	9.20	81.2	16.4	538	0.0	0.0	0.0	75.3	8.3
		2002年	8.05	9.20	83.8	16.8	503	0.3	0.0	0.0	67.7	4.3
		2003年	8.08	9.22	75.3	16.5	593	0.3	0.5	0.5	70.8	4.7
苗代	ヒメノモチ	2000年	8.07	9.18	82.2	16.2	470	0.5	0.0	0.0	51.3	3.5
		2001年	8.03	9.21	85.4	16.9	517	0.0	0.0	0.2	70.9	3.3
		2002年	8.06	9.21	88.1	16.7	496	0.7	0.0	0.2	62.1	5.0
		2003年	8.12	9.28	81.8	16.8	556	1.0	0.5	0.8	68.2	5.7
飯館	福島糯8号	2001年	8.07	9.30	85.4	17.4	385	0.0	0.0	1.0	68.2	9.0
		2002年	8.09	9.23	84.6	15.9	434	3.0	0.0	0.0	59.3	3.0
		2003年	8.11	9.22	70.6	16.1	480	2.0	1.0	1.0	17.1	9.0
		2008年	8.06	9.28	86.6	17.6	344	0.0	0.0	0.0	57.9	6.0
	ヒメノモチ	2003年	8.12	9.21	70.5	15.9	379	1.0	1.0	2.0	20.5	8.0

注) 猪苗代：旧農業試験場冷害試験地での値。

飯館：2001年～2003年及び、2008年の水稲奨励品種決定現地試験までの値。

品質：福島農政事務所地域第二課による9段階評価(1～3：上上～上下、4～6：中上～中下、7～9：下上～下下)

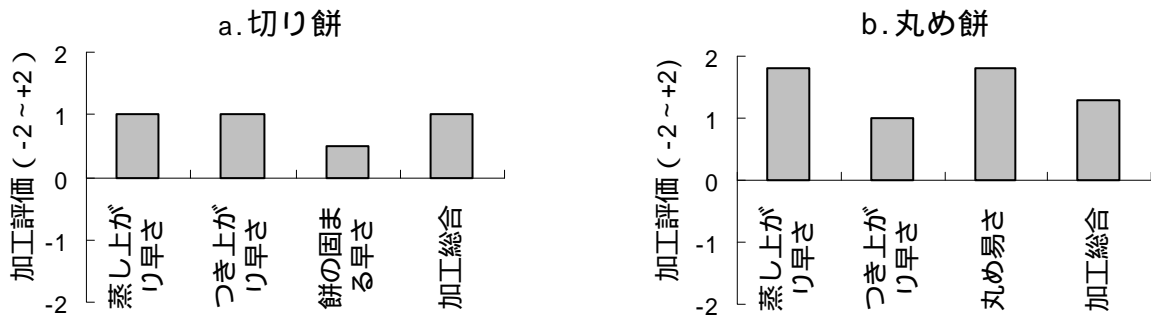


図 1 . 福島糯 8 号の加工特性評価 (2008 年)

注) 飯館村の餅加工グループにおいて、2008 年飯館産米を使用して実施。

対照品種：ヒメノモチ

加工評価：-2 (劣) ~ 0 (同) ~ 2 (優) とし、5 段階で評価。

表 2 . おこわの食味評価 (2008 年)

	総合	外観	香り	味	粘り	硬さ
福島糯 8 号	0.83**	1.58**	0.00	0.67**	0.92*	1.08**

注) 2008 年飯館村産 対照品種：ヒメノモチ

パネラーは 12 名、おこわ加工は花かつみ農産加工グループが実施。

評価基準：-3 (かなり不良) ~ 0 (対照と同) ~ +3 (かなり良)

* : 5% 水準で有意。 ** : 1% 水準で有意。

[その他]

研究課題名：水稲奨励品種決定調査

予算区分：県単

研究期間：2000 年～2008 年

研究担当者：笹川正樹、内山かおり、手代木昌宏